

逗子市まちづくり懇話会 会議録

回数	開催日	田村出欠	市長	概要	行政の在り方への発言
1	1986/10/14		富野暉一郎	会の位置づけを大議論、出席職員にも発言を求める	懇話会は公開・秘密でない（逗子方式）、まちづくりは総合的に考えること、部会と懇話会は関係づけるべき、総合計画の審議会は別にあるが懇話会で市民の声を入れていく（市長）、総合計画の基本構想はできるだけ早く市民討議にかけるべき
2	1986/11/13		富野暉一郎	運営の仕方、総合性と都市デザイン（高橋志保彦）	運営で一番大事なのは総合性、懇話会は自由に懇談してそこで出た事自体が提言となる
3	1986/12/1		富野暉一郎	各部会報告、環境資源と環境管理計画が不明確、すべて関係する	設計の競争入札は絶対おかしい、新しいものを生み出す知恵を買うのだから安いのがいいという競争入札はありえない、懇話会は逗子に欠けている総合的に考えることをやる、懇話するだけではない
4	1987/1/16		富野暉一郎	公共施設設計検討部会、デザインコード	
5	1987/2/24		富野暉一郎	海の生態変化	
6	1987/8/1		富野暉一郎	総合的な親部会として再発足	
7	1987/11/24		富野暉一郎	プライマリヘルスケア	
8	1987/12/23		富野暉一郎	情報通信と在宅勤務	
9	1988/1/20		富野暉一郎	長島孝一・区の魅力づくり	
10	1988/2/26		富野暉一郎	武内・ドイツ我が村は美しく	
11	1988/3/31		富野暉一郎	雑談、総合計画の状況	
12	1988/4/25		富野暉一郎	田村・台湾の平均地権、武内・環境管理計画と住民意識調査の予算が切られた	
13	1988/5/27		富野暉一郎	現地見学会	
14	1988/6/28		富野暉一郎	高齢化社会、逗子は住民が三区分（原住、別荘族、新住民）	
15	1988/8/31		富野暉一郎	狭隘道路、建築確認問題、逗子は建築主事なし	
16	1988/9/29		富野暉一郎	武内・環境管理計画	
17	1988/10/31		富野暉一郎	前回続き	
18	1988/11/28		富野暉一郎	中村・かながわの歴史	
19	1989/1/30		富野暉一郎	大学と留学生	
20	1989/2/27	×	富野暉一郎	長谷川・恐竜の話	
21	中断			予算がつかないため	
22	1990/4/24		富野暉一郎	長島・駅前広場計画	
22	1990/5/22		富野暉一郎	田村と市長が実践的な開発規制の在り方で大議論	県建築審査会に市の意見を出しているが、県は意見なしとしている。斜面地の開発は形質の変更である。逗子全域を美観地区にしたらどうか、使えるものを使えばよい。要綱はあったがあまりきいてこないで別途の方法が必要なら、必要なものをまずやると考えればよいが、頭の中でトータルに考えていくことは絶対に必要だ。逗子のまちは小さいから可能性がある、逗子のまちでなきゃできないようなものを生かすべき。もっとトータルな環境管理計画ならば逗子でしかない言葉を使うべき。部分のある力を持っているものがいくつかあって、全体ができる。それが一つ有効だったら相当全体に影響するものだ。総合計画は達成する具体的な手法を持っていることが一番重要。ポリシーとそれを実現する手法。ポリシーを系統的に確認することが重要。住民全体が逗子の状況を認識することが必要。市民が全体市民としてトータルにみて自分たちで環境をつくっていくかが重要。
23	1990/6/19	×	富野暉一郎	生涯学習検討協議会報告の説明	
24	1990/7/27		富野暉一郎	小林・ドイツの都市計画制度で大議論	
25	1990/9/27	×	富野暉一郎	ランドデザインについて	
26	1990/10/24	×	富野暉一郎	ライフスタイルの変更	
27	1990/11/29	×	富野暉一郎	サテライトオフィスの動向	
28	1990/12/19	×	富野暉一郎	ランドデザインのフレーム	
29	1991/1/31		富野暉一郎	市長・三浦半島中央道路計画で大議論	
30	1991/3/6		富野暉一郎	ランドデザインでの市長の考えが分からない	

31		1991/4/9	富野暉一郎	市民参加とランドデザインの叩き台	
32	1991	1991/5/20	富野暉一郎	ランドデザインのラフスケッチ案の説明、混乱するランドデザインづくりで市長を説得する田村	逗子のライフスタイル、50年で考える、超長期計画のフィジビリティスタディは必要だが財政計画までやる必要はない、どういう条件ができたときにできるのかは考えないといけない、ランドデザインの作業部会をつくるべき、市が案をつくるべき
33		1991/6/26	富野暉一郎	サテライトオフィス、ランドデザイン長島案	
34		1991/7/23	×	富野暉一郎	
35		1991/9/17	富野暉一郎	東逗子スーパー出店問題、ランドデザイン	
36		1991/10/31	富野暉一郎	ランドデザインの進め方	
37		1991/12/17	富野暉一郎	ランドデザインで市民のライフスタイル、50年先は断絶してもよい	
38		1992/2/24	富野暉一郎	セットバック部分の緑化と用地買収、生涯学習について。市民主体、矛盾を解消するために自分たちがやるべき、要求するだけでなく自分でやって感じてみるべき、田村はこれから半年英国留学	
39		1992/3/17	富野暉一郎	生涯学習検討部会報告書を田村会長から市長に報告、ランドデザイン調査研究委員会の進め方	
40		1992/5/12	×	富野暉一郎	逗子は新しい地方自治をめざしている
41	1992	1992/7/7	×	富野暉一郎	小坪計画、環境条例、総合計画
42		1992/11/6	富野暉一郎	市長交代前提で、ランドデザインづくりへの市民参加を逗子の特色に	環境アセス関係の条例が効果を表している（市長）。1960年代初期は市民参加に議会制民主主義が反対していた（田村）。池子問題が10年たつが市民自治を逗子では保守革新問わず使っている（市長）。僕は地方自治法2条に言っている総合計画だって、あんなものは初めなかったのが、突如としてあんなものを入れちゃったりして、これをどう解釈するか、そんなもの放っておけと。だけど、せっかく言っているのだから、ひとつごく短いものだけをつくろうと言って、それを法律に基づくものにしちゃったわけです（田村）。ランドデザインは逗子が主体的にやって、その意味をはっきりさせておくべき（田村）。ランドデザインづくりでは市民の拠点があるべき（田村）。
43	1993	1993/2/12	澤光代	要綱から委員任期がなくなる、市長交代と行政の継続性、田村がおおいにほえる	池子の問題がきっかけとなって市民がこのまちを作り上げていくという、市民自治の強い決意を持っているまちですから、市民が直接に政策形成に参加していける、そして行政はいつも市民にとって開かれて行政でありたい（澤市長）。政策的に変えるのと行政的一貫性は別であるが、行政継続性は市民自治のうちである（田村）。懇話会は政策的な課題を広範多岐かつ総合的に研究・協議する。行政が総合性を持たないと、本当の市民自治は達成できない（田村）。逗子ならばどうするという答えを出してもいい（田村）。
44		1993/3/29	澤光代	総合計画と市民自治	

注) 富野市長 任期 1984年11月～1992年11月
澤市長 任期 1992年11月～1994年11月